

令和6・7年度企画展

いぬ がた ど せい ひん  
**犬形土製品と中世のいのり**  
**解説資料**

安産のお守りといわれている「犬形土製品」。

戦国時代に豊後府内(\*)で流行した小さくてかわいらしい土人形です。

豊後府内から出土する犬形土製品の大半は大坂(現在の大阪市)で作られ、民間の交易を背景に、府内にもたらされました。豊後府内では20個体を超える犬形土製品が出土しており、九州の中世遺跡の中では突出した数となっています。今回の企画展では、犬形土製品をはじめとする出土品から、民間信仰や仏教などの視点より、中世に生きたひとびとの「いのり」のかたちを探ります。

\*豊後府内……現在の<sub>大分市</sub>元町・錦町付近に位置する中世の都市遺跡。戦国大名大友宗麟が拠点とした都市のひとつ。



犬形土製品(重要文化財)/  
府内大友氏遺跡(大分市)  
大分県立埋蔵文化財センター蔵  
(撮影 牛嶋 茂)



大分県立埋蔵文化財センター

TEL 097-552-0077 FAX 097-552-0700



HP



Facebook



Instagram



重文No568

重文No565

重文No558

重文No569

犬形土製品(重要文化財)  
府内大友氏遺跡(大分市)  
大分県立埋蔵文化財センター蔵  
(撮影 牛嶋 茂)

大分市の府内大友氏遺跡からは多数の犬形土製品が出土している。犬は多産であることから、これらは安産祈願の「お守り犬」として戦国時代の人びとが所有した土人形であると考えられている。犬形土製品のうち、大分県教育委員会が調査した17点は国の重要文化財に指定されている。本頁では重要文化財に指定されている資料の中で、欠損部位がなく、保存状態が良好なもの4点を紹介する。



重文No568



重文No565



重文No558



重文No559

犬形土製品No.568については、大分県教育委員会のHP「おおいた文化財ずかん」に3D画像が掲載されており、普段は見られない角度からも観察することができます。



©大分県教育庁文化課

**赤く塗られた犬**  
 府内大友氏遺跡(大分市)  
 大分県立埋蔵文化財センター蔵

犬形土製品の表面が、赤色顔料により赤く塗られている。民間信仰では赤色は「疱瘡(ほうそう)除け」や「厄災除け」の効果があると信じられている。犬形土製品が安産・多産の効果だけではなく、子供の病氣平癒や厄除けの役割が期待されていた可能性がある。



重文№562

重文№563

**黒い(?)犬**  
 府内大友氏遺跡(大分市)  
 大分県立埋蔵文化財センター蔵

表面が淡黒灰色を呈する犬形土製品。他の資料と比較すると、色調や耳の表現が異なるなどの特徴がある。府内大友氏遺跡の犬形土製品の大部分は大坂産のものであるが、この資料の製作地は大坂以外である可能性が考えられる。



重文№564

**大型の犬形土製品**  
 府内大友氏遺跡(大分市)  
 大分県立埋蔵文化財センター蔵

通常のサイズ(重文№565)などと比較して、体長が約1.5倍ほどある大型の犬形土製品。眼の表現がないことも特徴。大坂でもこの大型の犬形土製品が出土しており、これらの製作地も大坂産と考えられている。



重文№571

重文№570

(重文№565)

**〔参考資料〕**  
 法華寺・御守犬  
 個人蔵

奈良市の法華寺で、現在も作られている犬形土製品。体長4cmと2cmの2種類のサイズがある。法華寺の尼僧によって製作され、諸人の悪病災難を除いたり、安産育児の御守りとされている。





**犬形土製品**  
大友氏館跡(大分市)  
大分市教育委員会蔵

大友氏館跡は戦国大名大友宗麟が拠点とした館(屋敷)で、この遺跡からは2個体の犬形土製品が出土している。本資料は完形品で、16世紀後半に構築された庭園の池の埋土から出土した。完形品で、大坂産。豊後府内の町屋から多数出土している資料と特徴を同じくする。



**犬形土製品**  
府内城・城下町跡第19次(大分市)  
大分市教育委員会蔵

近世府内城・府内城下町跡の下層から出土した。この層の年代は近世府内城が築城される直前の時期である16世紀後半から17世紀初頭まで遡る。耳を欠損するが、資料の特徴は府内大友氏遺跡から出土する犬形土製品と同じである。



**犬形土製品**  
臼杵城下町遺跡(臼杵市)  
臼杵市教育委員会蔵

「臼杵」も大友宗麟が拠点とした都市のひとつで、城下町は宗麟の居城である丹生嶋城の南側に展開する。出土地点は城下町の町屋で、犬形土製品は臼杵の商人による交易を背景に当地にもたらされたと推定される。



**犬形土製品**  
高森城跡(宇佐市)  
宇佐市教育委員会蔵

高森城は、豊臣秀吉の九州平定後の天正15年(1587)に豊前六郡に入部した黒田官兵衛孝高が、弟の利高を宇佐郡に派遣して築城させた織豊系城郭。犬形土製品は16世紀後半から末の遺物とともに出土しており、その特徴から大坂産であることがわかる。



「いつも肌身離さずもっているね～犬形土製品～」（北村直登2024年・個人蔵）

大分市在住の画家北村直登氏が、大分県立埋蔵文化財センター所蔵の犬形土製品からインスピレーションを受けて描いた作品。当センター主催の企画展「北村直登の世界～考古とアートの共演～」(令和6年8月18日～9月29日)を契機に制作された。黄色を基調とした背景に6匹の犬形土製品が配置され、画面の右上に大きな空間を設けるとともに、犬の輪郭に白色、耳の輪郭や脚部に薄青色のペイントを加えるなど、北村氏独特の感性が表現されている。



犬形土製品・猿形土製品  
黒川院関連遺跡群（福岡県朝倉市）  
朝倉市委員会蔵

黒川院関連遺跡群と犬形土製品・猿形土製品

「黒川院」は現在の福岡県朝倉市黒川の地に建武元年(1334)に彦山座主(ざす)の御所が構えられたことから始まる。彦山(福岡県田川郡添田町)は山岳信仰から発展した信仰の山で、近世以降は「英彦山」と表記された。九州の山岳修験の中核をなし、彦山六峰や彦山四九窟などの霊場をもつ。座主とは僧の職名で、大寺の寺務を統括する首席の僧を意味する。ここでは英彦山神社(もともとは神社ではなく修験道の寺院)のトップのこと。

犬形土製品は犬が多産であることから、彦山座主家の子孫繁栄を願う道具であり、猿形土製品は山王信仰(滋賀県大津市坂本の日吉大社で祀られる神を信仰するもので、比叡山に鎮まる神を意味する)において猿は神の使いであることから、信仰の対象として製作されたと考えられている。



犬形土製品(①・②)

素焼きで表面が磨かれており、光沢が生じている。また、表面に赤色顔料の塗布の痕跡が認められる。

頭の頂部に太めのヒゴ状工具を押し当てることによって、耳部を形成する。大坂産の犬形土製品とは明らかに胎土や製作技法が異なる。他に類例がないため、在地産(九州北部産?)であろうか。



猿形土製品(③・④)

つま先を立てて膝を折った上に腰を下ろす「跪座(きざ)」の状態では表現されている。跪座は神道などの神事の際にとられる姿勢のひとつである。顔部には赤色顔料が塗布された痕跡があり、猿の顔色の表現がなされている(③)。

前と背中に小猿を抱える母子猿を表現する。小品ながら、造形の素晴らしさに注目してほしい(④)。

〔参考資料〕

猿形土製品(重要文化財)  
府内大友氏遺跡(大分市)  
大分県立埋蔵文化財センター蔵

左腕と左脚を欠損する。顔には赤色顔料が塗布された痕跡がある。頭に帽子を被った表現が特徴的である。帽子には文様がある。帽子を被った表現から、この猿は「神の使い」というよりは愛玩動物であった可能性が考えられる。





重文№576

**土製地藏菩薩坐像**

近年の研究で、南北朝時代(14世紀)以降の九州北部では、旧豊前国を中心として、豊後・筑前・肥前地域にかけて、型押しで作られた小型の土製地藏菩薩坐像が分布することがわかってきた。その分布は豊前北部を中心とし、大宰府や求菩提山など、主要な宗教拠点に偏在する。分布の背景は必ずしも明らかでないが、地域の宗教拠点や山岳信仰に携わる僧などが関係していたと考えられている。

**土製地藏菩薩坐像(重要文化財)**

府内大友氏遺跡(大分市)

大分県立埋蔵文化財センター蔵

大友氏館跡南限付近に16世紀後半から末頃に構築された溝から出土した。胸前に瓔珞の表現がなく、左右の膝前に篆書体(てんしよたい)の文字が認められる。胎土の色調は赤褐色を呈する。16世紀の遺構から出土しているが、この資料の製作年代は14世紀代に遡る可能性がある。この種の土製地藏菩薩坐像の分布域としては本例が南限となる。



**土製地藏菩薩坐像**

岩戸寺明賢洞(国東市)

岩戸寺蔵

六郷山末山本寺である石立山岩戸寺境内の明賢洞に、今も安置されている土製地藏菩薩坐像。明賢洞は岩戸寺をはじめとした六郷山寺院の開祖とされる仁聞菩薩の俊足(優れた才能をもつ人の意)であった明賢律師の墓とされる洞窟である。寺伝では、明賢は仁聞の命を受け養老4年(704)に都に上り、律師の位を授けられたという。

地藏菩薩像は胸前に瓔珞(ようらく)の表現がなく、左右の膝前に篆書体の文字が認められるが、胎土の色調が淡褐色となる。



**土製地藏菩薩坐像**

青龍窟(福岡県京都郡苅田町)

苅田町教育委員会蔵

苅田町に所在する山岳宗教寺院である普智山等覚寺(ふちさん・とうがくじ)の奥の院である青龍窟の発掘調査で出土した資料のひとつ。青龍窟では土製地藏菩薩坐像の体部が60体、頭部が29体出土している。胸前に瓔珞の表現があることが特徴。胎土の色調は淡褐色を呈する。

**泥塔(でいとう) (重要文化財)**  
**府内大友氏遺跡(大分市)**  
**大分県立埋蔵文化財センター蔵**

泥塔とは土で作られた仏塔を摸したもので、古代末から中世にかけて貴族や武士などが病氣平癒や怨霊調伏を目的として供養したものといわれている。また、犯した罪の消滅や長寿を願って製作されたものもある。京都などでは密教系の寺院から数百個体以上の泥塔が出土した事例がある。府内大友氏遺跡のものは型作りで、塔の形状は相輪(いずれも欠損)・笠部・塔身・基壇と簡略化されている。表面は黒褐色を呈する。出土事例は少数で、重要文化財に指定されている2点を展示した。



重文№577



重文№578

**土鈴(どれい) (重要文化財)**  
**府内大友氏遺跡(大分市)**  
**大分県立埋蔵文化財センター蔵**

土鈴とは粘土を用いて焼成されたやきものの鈴。内部に小さな土玉があり、振るとカラカラと乾いた音がする。家の柱などに複数個体を吊り下げること、魔除け・虫除け・災害除けの効果があるとされる。



重文№631

重文№632

**木製人形(ひとがた) (重要文化財)**  
**府内大友氏遺跡(大分市)**  
**大分県立埋蔵文化財センター蔵**

人形(ひとがた)とは人間の形を摸して作られたものを指す。古代から中世にかけて人形は他人に呪いをかける呪詛の道具や人間の身代わりに厄災を引き受けてくれる対象物として機能した。

府内大友氏遺跡出土の人形①～③は、小刀で眼・眉や口を表現するほか、②については烏帽子を、③については墨で眼・口・頭髪を表現する。



①重文№1067

②重文№1065

③重文№1066

伝千歳町南部出土品（豊後大野市）  
大分県立埋蔵文化財センター蔵

不時発見による一括資料である。旧千歳村（現在の豊後大野市千歳町）に在住していた発見者が、同市内で試掘調査業務に従事していた当センター職員に持参した資料。備前焼の壺の内部に、木製円盤呪符2・人形代1・和鏡1が埋納されていたという。備前焼の壺の型式などから、14世紀末から16世紀初頭頃の年代が考えられている。同様の事例が、広島県山崎遺跡や京都府矢谷遺跡からも出土している。



①（地盤）



②（天盤）

①・②円盤呪符

2枚の木製円盤のセット（天盤・地盤）で、2枚とも呪詛（じゆそ）に関する墨書が表裏両面に書かれている。

①の中央には円相内に「三郎巫」・「天」・「歳」の文字が書かれ、その右側に「南（炎）（山）口方口」、左側に大日真言である「ア・ヴィ・ラ・ウン・ケン」が梵字で書かれている。また、「天」と直線を組み合わせた符牒を配置している。

②は判読できる文字が少ないが、「天」・「百」・「歳」・「鬼（のような文字）」が認められるものの、「天」と直線を組み合わせた符牒は描かれていない。これらの内容は室町時代に成立した呪術書『吉備大臣保憲之十八番形儀』の中に類例が見られる。



③



④



⑤

③人形代（ひとかたしろ）

樹種不明の木片を利用して製作されたもので、人形代の可能性が高い遺物。眼鼻などの体部を示す表現は肉眼観察では認められないが、赤外線による観察では頭部に墨痕が認められている。

④和鏡

直径11.5cmの青銅鏡で、中央には菊花、周囲に秋草を巡らせ、その上位に2羽の雀を配する「秋草双雀文鏡」である。

⑤備前焼壺

口縁部から肩部が発見時に破損している。内部に緑青の付着が認められ、和鏡が埋納されていた傍証となる。

# 犬形土製品と中世のいのり（令和7年2月11日～5月25日）

資料名	数量	遺跡名	所蔵者	年代	指定
<b>〔犬形土製品〕</b>					
犬形土製品	17	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	16世紀後半	重文
犬形土製品	2	大友氏館跡(大分市)	大分市教育委員会	16世紀後半	-
犬形土製品	1	府内城・城下町跡第19次(大分市)	大分市教育委員会	16世紀後半	-
犬形土製品	1	臼杵城下町遺跡(臼杵市)	臼杵市教育委員会	16世紀後半	-
犬形土製品	1	高森城跡(宇佐市)	宇佐市教育委員会	16世紀後半	-
犬形土製品・猿形土製品	4	黒川院関連遺跡群(福岡県朝倉市)	福岡県朝倉市教育委員会	15～16世紀	-
猿形土製品	1	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	16世紀後半	重文
御守犬(奈良県法華寺)	2	-	個人	現代	-
「いつも肌身離さず持ってるね ～犬形土製品～」北村直登作	1	-	個人	2024年制作	-
<b>〔中世のいのり〕</b>					
土製地藏菩薩坐像	1	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	14～16世紀	重文
土製地藏菩薩坐像	1	岩戸寺明賢洞(国東市)	岩戸寺(大分県国東市)	14～16世紀	-
土製地藏菩薩坐像	1	青龍窟(福岡県京都郡苅田町)	福岡県苅田町教育委員会	14～16世紀	-
青銅製念持仏	1	慈眼山遺跡(日田市)	大分県立埋蔵文化財センター	15～16世紀	重文
青銅製念持仏	2	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	16世紀	重文
懸仏	5	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	16世紀	重文
墨書陶磁器皿「一因」	2	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	16世紀	重文
石塔残欠	1	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	14～16世紀	重文
五輪塔水輪(「応永廿〇年」刻書銘)	1	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	15世紀	重文
土師質土器	11	旧万寿寺跡7次(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	14世紀	-
緞銭・土師質土器小皿・坏	5	尾漕遺跡(日田市)	大分県立埋蔵文化財センター	15世紀	-
土製神像	1	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	16世紀	重文
青銅鏡加工品	1	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	16世紀	重文
絵画礫	1	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	16世紀	重文
青銅製杓子	3	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	16世紀	重文
陶器鍾馭像	1	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	14～15世紀	重文
泥塔	2	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	15～16世紀	重文
土鈴	2	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	16世紀	重文
木製形代・陽物	5	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	16世紀	重文
呪符カワラケ	10	中世大友府内町跡第117次(大分市)	大分市教育委員会	16世紀	-
銭貨幣埋納カワラケ	5	中世大友府内町跡第105次(大分市)	大分市教育委員会	15～16世紀	-
土師質土器小皿	16	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	15～16世紀	重文
合わせ口のカワラケ	6	府内大友氏遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター	14・16世紀	重文
備前焼小型壺・円盤呪符・和鏡・人形代	5	伝千歳町南部(豊後大野市)	大分県立埋蔵文化財センター	14～16世紀	-
<b>〔犬形土製品をつくろう!!〕</b>					
「犬形土製品」の作品	-	-	-	-	-

\*大分県府内大友氏遺跡出土品1,269点のうち、重要文化財に指定されているものについては、写真のキャプション中に指定番号(通番)を付記しています。

\*展示品の保護や展示スペースの関係から、展示替えを行うことがあります。

主催／大分県立埋蔵文化財センター

後援／大分合同新聞社 NHK大分放送局 OBS大分放送 TOSテレビ大分 OAB大分朝日放送

協力／大分市教育委員会・臼杵市教育委員会・宇佐市教育委員会・岩戸寺(大分県国東市)・

福岡県朝倉市教育委員会・福岡県苅田町教育委員会